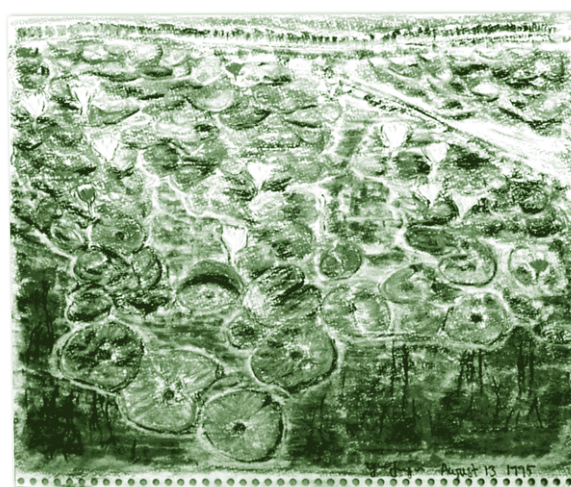


図書館だより

'02.04

*Frog pond*のほとりにて

藤井 義博(食物栄養学科/人間生活学研究科)



My frog pond

古池や 蛙飛びこむ 水のをと

そうです、frog pond (蛙池) は、芭蕉 (1644-1694) の俳句の古池のことです。17世紀の江戸蛙のドボッ...が引き起こした水紋、それは 日本の津津浦浦を巡り、さらには遥か大洋も渡り、今やhaikuと呼ばれ全世界に波及しています。たとえば、the Haiku Society of America (米国俳句協会) の発行雑誌名は*Frogpond*と云います。今日は、この蛙池のほとりに佇み、そしてこの波紋にあなた自身も参加してみませんか! ?

目 次

Frog pondのほとりにて 藤井 義博 1	新着DVD紹介&お知らせ 6
私が出会ったこの一冊 丸山 梢 4		
中村 由香理			

ところで、古池はひとつとしても、飛び込んだ蛙は何匹か？Haikuでは、言語の構造上こんな疑問が浮上してきます。Haruo Shiraneさんは、われわれが半ば無意識裏にそう了解しているように、それは1匹だと解釈しています。しかし、蛙は複数いても面白い。私の青春時代、梅雨の京都は大覚寺、大沢の池のほとりの散策時、足下の草むらから、ドボッ、ドボッ...と何匹も、蛙が池に飛び込んだ、その情景を今も鮮やかに思い出します。

飛びこんで 古うた洗う 蛙かな

蕪村（1716-1783）は、古池の句をこのように感得しました。斬新な蛙よ、敢えて古くさいうたの世界に飛びこんで、それを変革しおった。芭蕉以前の蛙は、鳴き声とのみ決めつけられていました。この蛙のドボッ...に、蕪村は新しいパラダイム（知的枠組み）の誕生を読み取っています。

古池や 芭蕉飛びこむ 水のをと

禅僧の仙厓（1750-1837）は、はっきりと、飛び込んだのは蛙ではない、それは芭蕉その人であると云い切りました。ここに、蛙池は蛙だけのものではなくなりました。

このように芭蕉が飛びこんだ蛙池の水音と水紋、それは現在どんな姿を見せているのでしょうか？

*frog pond—
a leaf falls in
without a sound*

<蛙池 一葉落ちこむ をとだになし> てな風になるやろか？Bernard Lionel Einbondさんは、一葉をパーフェクトに落下入水させることで、蛙池から音を消し去りました。完璧さが引き起こした静寂の中、ただかすかな水紋だけが音もなく広がってゆきます。

古池に 蛙とびこみ 複雑骨折

現代は、蛙池の風景もずいぶんと様変わりしました。京の古池の中には、放されたブラック・バスのためすっかり生態系がダメになってしまったものもあると聞いてます。長生きしたものの骨粗鬆症^{こつそしょうしょう}のご老体蛙ならなおのこと、こんな池にうっかり飛びこもうものならば、蔵元秀樹さんの句のように、ポキッではなくグチャグチャに骨折してしまいかねません。

old pond a frog rises belly up

<古池蛙一匹浮上腹仰向け>てな風になるやろか？ Marlene Mountainさんは、飛びこんだはいいが、恐らく頭を水底にガンと打って気絶した、そんな姿で蛙を浮上させました。ソルトレイク・オリンピック、Normal & Large Hills 両方の金メダリスト、スイスのアマン選手、直前の大会で大転倒、頭を打って気絶して、それがきっかけ見事に変身、浮かび上がりましたね。

蛙池 それぞれ飛びこみ リハビリテート

21世紀の現在、各分野の専門家になってゆく女性は、知性と感性とを似合いのカップルにしないではいけません。そのためには、人生の袋小路でドン詰まった時、ときめきの「初心」に立ち返ることが必要です。その時手助けになるのが、蛙池のほtotりでの感性のリハビリテーションです。なぜなら<Haikulは、日常茶飯事を、子供の頃はじめて経験したときのように、直接的にかつ生き生きと経験することを手助けする>(Cor van den Heuvel)のだから。そして、ときめきの「初心」の萌え出づる頃、それが人生における大学(院)時代なのです。Frog pondのほtotりに佇むあなた、それはあなた自身と古えと世界を結ぶ、ときめきを蘇らせる蛙池(your frog pond)なのです。そこへと、奥行かしくはありませんか...？

参考文献

The haiku anthology: haiku and senryu in English
edited by Cor van den Heuvel,
3rd ed. W. W. Norton & Company, 1999.



* 巻頭の"My frog pond"は藤井先生が描かれたスケッチです。

私が出会ったこの一冊

新学期が始まりました。やはり春は新しい出会いの季節ですね。

今回は「私が出会ったこの一冊」と題して、2人の方に本との出会いについて、おしえていただきました。

みなさんにもぜひこの図書館で、本との素敵な出会いを体験してほしいと思います。

人間生活学部人間生活学科 平成13年度卒 丸山 梢

「黒柳」ということは黒柳徹子さんと関係があるのかなと手に取ったのは、黒柳朝著『チョッちゃんが行くわよ』でした。表紙のやわらかい子どもの絵がいわさきちひろさんの絵と似ていたこともそうでした。

黒柳朝さんという方は黒柳徹子さんのお母様でした。

「窓ぎわのトットちゃんのお母さん」

どんな方だったのだろうと本を開きます。

お洋服をピリピリのジャキジャキにしても叱らなかったママ。そのママが自分のママの話をしていました。黒柳徹子さんのおしい様おばあ様にあたる方達です。トットちゃんにもママがいてそのママにもママがいる。

当たり前なことなのですがとても新鮮で『窓ぎわのトットちゃん』のママを思い出したうなずきました。

『チョッちゃんが行くわよ』は黒柳朝さんの半生が書かれたものでした。

徹子さんのお父様が音楽家なこともいさつが分かりました。

たった一つ、『窓ぎわのトットちゃん』には近づきたいところがありました。それは、お父様がオーケストラのコンサートマスターでいらしたことでした。オーケストラ。コンサート・マスター。その響きはとても素敵でした。でもなんだか手の届かない人のようにも感じられました。

「きっとたいそうなお家だったのでしょね」

ひがみも混じってどこか高貴で近よりがたい雰囲気は私は寂しく記憶していました。でもそうではあませんでした。

『窓ぎわのトットちゃん』を読んだのは中学生の時です。多くの人に読まれ愛されている本と知って開いたのですが、小さな子どもの日常。なぜこれが心に深く残るのかどうしても分かりませんでした。それから少し経



「窓ぎわのトットちゃん」
黒柳徹子著 講談社 1981
本館・花川館 915.9/Ku78



「チョッちゃんが行くわよ」
黒柳朝著 主婦と生活社 1983
本館・花川館 289.1/Ku78

ちました。幾列も並んだ本棚に、あらと目を留めた『チヨッちゃんが行くわよ』は『窓ぎわのトットちゃん』を連れて来てくれました。今度は分かれました。

何を讀もうか本棚の間をゆっくりまわる時、たまにこんな嬉しい再会があります。

文学部文化総合学科3年 **中村 由香理**

今、この原稿を書いている3月14日においてもまだアメリカのアフガニスタンへの攻撃が続いています。また、毎日イスラエルとパレスチナの紛争が報道されているのを目にします。それらのニュースを見ている時、自分の感覚が戦争に対して麻痺している、と感じました。天気予報のように毎日繰り返しテレビで犠牲者数が流れることに慣れてしまって、今日は3人なんだ、と、ただ見ているだけ。だって、自分の生活で頭がいっぱいで、、、。余裕がない?いえ、それはただ無関心になっているだけ。自分の足元しかみていないだけなのです。

あるいは———すぐモノが手に入って使い捨てることが多い現在、お金さえ払えば何をどれだけ買おうと私の自由じゃない!という感覚に染まりがちです。手に入って当たり前感覚。でもちょっと待って。私の使っているこの原稿用紙一枚のために伐採された木とか、目の前のこの食事が多くの人の手によって口に入ることや、このつけっぱなしのテレビのエネルギーのムダとか、この値段があってないような安い服はいったいどこの国の子どもがどのような労働条件で作っている服なのか、とか考えた?自分の欲望のままに消費することの愚かさや傲慢さ。

戦争や飢餓、合理主義の追求、富めるものと貧にあるものとの断絶という世界の現状で、平和への希

望なんて持てない、なんて嘆くかわりに、平和は自分の心から始まるという、とてもシンプルなことがあるんです。それは、この世界で自分と無関係なものはないという真実への認識や注意力であり、世界と自分との親密さなのです。世界を取り巻くまなざしと自分の足元をみるまなざし、そのバランスがあること。そして、その視座や感覚は、私に今なにができるのか?なにをすべきなのか?を考えさせます。

私がこのように考えていることへの影響はいろいろあるけれど、犬養道子さんの『人間の大地』を読んだことが大きく影響していると思います。ついつい自分の足元しか目に入らなくなる私に、世界のあらゆる飢餓や戦争や、環境問題を含めた出来事から切り離されて私の存在はなくて、大宇宙という世界の流れの一部であることや世界が与えてくれるものへの感謝をこの本は改めて気づかせてくれるのです。



「人間の大地」
犬養道子著 中央公論社 1983
花川館 611/159



「渇く大地 人間の大地第2部」
犬養道子著 中央公論社 1989
花川館 611/159

新着DVD紹介

「世界の美術館：華麗なる美の殿堂」

全18枚、解説書
インター・カルチャー・クラブ 企画・制作

世界的に有名な美術館の収蔵作品を図書館に居ながらにして楽しむことができます。
どうぞご覧ください。(花川館所蔵)

【収録美術館】

ルーヴル美術館、オルセー美術館、オランジュリー美術館、
エルミタージュ美術館、プラド美術館、ウィーン美術史
美術館、オーストリア絵画館、ウフィツィ美術館、ピッティ
絵画館、アカデミア美術館(ヴェネツィア)、ドレスデン絵
画館、アルテ・ピナコテーク、ノイエ・ピナコテーク、ナショ
ナル・ギャラリー(ロンドン)、アムステルダム国立美術館、
ゴッホ美術館、クラー＝ミュラー美術館、カイロ博物館



ルーヴル美術館Ⅱ
＜世界の美術館：華麗なる美の殿堂＞

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

図書館の中は、もう探検してみましたか？

新入生のための図書館オリエンテーションは

5月中頃からを予定しています。

それまでにわからないことがあれば、

カウンターの職員に遠慮なくおたずねください。

また、在学生のためのガイダンスも随時受付中です。



藤女子大学 図書館だより 第62号 2002.04

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館

TEL 011-736-5405 FAX 011-709-4770

<http://library.fujjoshi.ac.jp/index.html>